

岡山都市圏¹における定住促進のための都市機能調査について

一般社団法人中国経済連合会(会長 芦谷茂)は、中国電力株式会社(社長 中川賢剛)ならびに公益財団法人中国地域創造研究センター(会長 船木徹)と共同で、人口減少社会の中で人口ダム効果が期待できる拠点都市における定住促進について調査を実施し、その調査結果を報告書としてとりまとめましたので、お知らせします。

1. 調査の目的

人口減少・少子高齢化が全国平均を上回るペースで進行する中国地域において地方創生を強力に推進するためには、地域における拠点都市が人口のダム効果を発揮する必要がある、その拠点都市においては定住促進を図るための都市機能強化が重要です。

本調査は、中国地域の拠点都市である岡山市を中心とした岡山都市圏¹を取り上げ、圏域の地域特性を踏まえた定住促進のために岡山市に求められる都市機能や具体的な方策について調査を行いました。

2. 調査結果のポイント

中国地域白書 2023²によると、岡山都市圏においては、「進みたい大学がある」「就職したい企業がある」といった『ライフステージの選択』と、「地元になりたい」「地元から出たい」といった『地域選択』を比べた場合、『ライフステージ選択』を重視する者より、『地域選択』を重視する者の割合が多いことが分かりました。

また、「地元になりたい」という『地域選択』には「地元との関係性(地域との関わり、つながり)」が影響を与えていることも分かりました。

そして、「地元との関係性」が強い人ほどウェルビーイング³な状態にある傾向がみられたことから、ウェルビーイング³を高めることが定住促進に繋がると考え、ウェルビーイング³を高め定住を促進するためにはどのような施策が有効かを検証するため、岡山都市圏¹の居住者や出身者等を対象としたアンケート調査(1,219件)や有識者ヒアリングなどを行いました。

その結果として、定住促進のためには、岡山都市圏¹の強みと考えられるウェルビーイングに影響する以下(裏面)の方向性1と方向性2を伸ばしていくことと、類似都市(熊本都市圏)と比べ弱みと考えられる以下(裏面)の方向性3と方向性4を克服していくことが重要であるとの方向性を取りまとめました。

¹ 岡山都市圏:岡山市、玉野市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町の7市町(岡山市と、岡山市への通勤交流率が第1位かつ10%以上の周辺市町)

² 中国地域白書 2023:中国地域創造研究センターと中国電力が作成した中国地域白書 2023「人々の希望と地域選択～中国地域の次世代のために～」では、「定住と移住」をテーマに掲げ、人々の「希望の形成と実現」の観点から定住・移住施策にアプローチする方法論を提示

³ ウェルビーイング:人が身体的・精神的・社会的に良好な状態であること

※調査結果の詳細は、「調査結果概要版」および「報告書」をご参照ください。

■岡山都市圏¹における定住促進のための方策

方向性1 豊かな暮らしを感じられるリバブル(住みやすい)なまち

【必要な都市機能】日常生活に豊かさを与える多様なアメニティ

【具体的な取組み】飲食・アート・音楽等の身近なカルチャーの集積。職住近接を可能にする都心居住の推進。グリーンインフラの整備。人中心でウォークアブルな都市環境整備

方向性2 生活圏がリアル・デジタルなネットワークでつながるまち

【必要な都市機能】都市圏をシームレスにつなげるネットワーク

【具体的な取組み】郊外とまちなかをつなぐ公共交通ネットワークの強化。居住地での快適な暮らしを支えるデジタルインフラの整備

方向性3 地域に根付く文化を誇れるまち

【必要な都市機能】シビックプライドを高める文化機能

【具体的な取組み】多様な歴史資源を活用した地域文化の発信。アート・演劇・スポーツなど多様なジャンルの地域文化の創造

方向性4 交流や自己実現の機会に恵まれたアクティブなまち

【必要な都市機能】にぎわいやイノベーションを生む交流機能

【具体的な取組み】日常的なにぎわいを生むまちづくりの促進。イノベーションを生む産学官共創のまちづくりの促進

・本調査結果は、当連合会ホームページに掲載しています。

URL:<https://chugokukeiren.jp>(中国経済連合会トッパー提言・要望・報告)

中国経済連合会(担当:小迫) TEL:082-548-8518/FAX:082-245-8305

・本調査結果に関するご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。

中国地域創造研究センター(担当:吉田) TEL:082-548-8718/FAX:082-245-7629

以上